

モニタリング調査結果の検証

地域の防護の確保の検証・評価

はじめに

個別目標:防護・・・地域の防護の確保

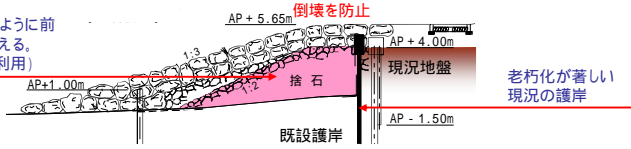
目標達成基準

高潮等の災害から背後地の安全を早期に確保されること。

1. “防護”に対する4つの指標

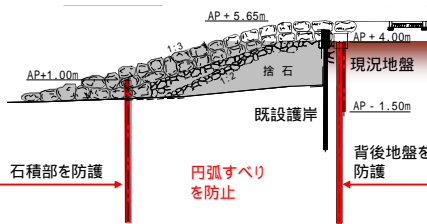
“緊急対応”への指標 : 既設護岸の補強に必要な石積が確保されたか。
老朽化した現在の護岸の倒壊防止を図る。

護岸が倒壊しないように前面を石積みで押さえる。
(完成形の一部を利用)



“耐震”への指標 : H鋼杭(海側、陸側)が打設されたか。
震度5強の地震時にも石積部が保たれるようH鋼杭を設置する。
震度5強の地震時にも背後地盤が保たれるようH鋼杭を設置する。

震度5強の地震時にも石積部が保たれるようH鋼杭を設置する

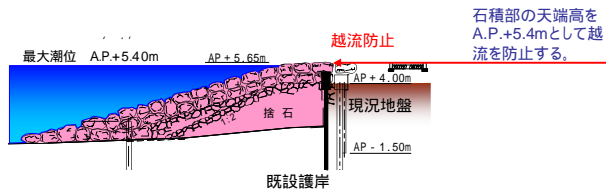


震度5強の地震時にも背後地盤が保たれるようH鋼杭を設置する

2

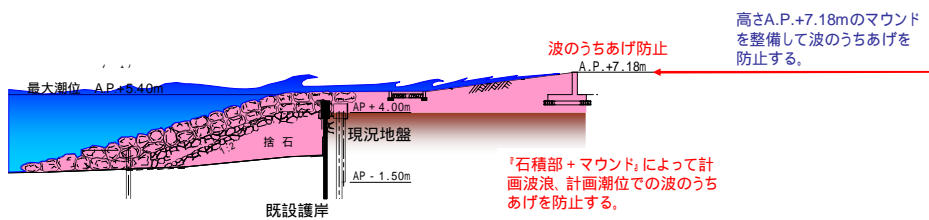
最大潮位での“越流防止”への指標

: 石積堤の高さがA.P.+5.4mに達しているか。
A.P.+5.4mに達する最大潮位でも越流しない高さの護岸とする。



石積部の天端高をA.P.+5.4mとして越流を防止する。

“高潮災害防止”への指標 : 背後地のマウンド高さがA.P.+7.18mに達しているか。
高潮時にも波が背後地に及ばないようA.P.+7.18mの高さのマウンドを護岸背後に整備する。



「石積部 + マウンド」によって計画波浪、計画潮位での波のうちあげを防止する。

3

2. 検証基準

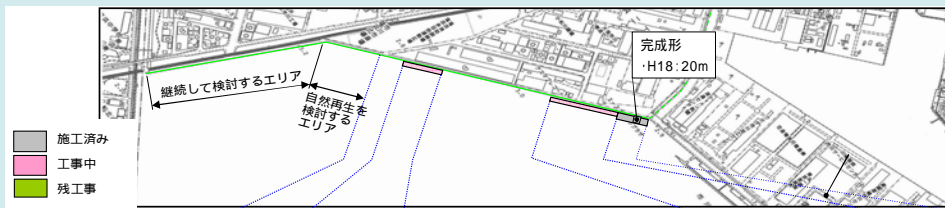
目標達成基準

地域の防護の確保に関する検証基準は、事業計画を踏まえて以下のとおりとする。

検証項目	目標達成時期	検証場所	基準とする値
防護の確保状況	平成22年度頃	塩浜2丁目	地域の防護に対する4つ指標がそれぞれ施工延長900mにわたって、 緊急対応への指標 100% 耐震の指標 100% 越流防止への指標 100% 高潮災害防止への指標 75.2% を確保すること。

注) のA.P.+7.18mまでの背後地の高さの確保は、平成22年度までの事業に含まれないため、最終目標値は $(5.4/7.18) \times 100 = 75.2\%$ となる。

3. H19年度工事の検証結果(工区ごと)



工種・箇所区分		91m		120m		356m		230m		60m		20m	
海域工事	捨石 + H鋼杭 (倒壊防止)		120m					230m			100m		
	被覆石 (バリエーション)										20m	20m	
陸域工事	H鋼杭 + 鋼矢板 (倒壊防止)										80m		
	被覆石 (バリエーション)											20m	

	実績	状況	実績	状況	実績	状況	実績	状況	実績	状況	実績	状況	実績	状況
緊急対応	無し	0.0%	有り	100.0%	無し	0.0%	有り	100.0%	有り	100.0%	有り	100.0%	有り	100.0%
耐震(H鋼杭;海陸)	無し	0.0%	一部有り	18.5%	無し	0.0%	海側のみ	50.0%	有り	100.0%	有り	100.0%	海側のみ	50.0%
越流防止(+5.4m)	無し	0.0%	4.0m	74.1%	0.0m	0.0%	4.0m	74.1%	3.0m	55.6%	5.4m	100.0%	4.0m	74.1%
高潮災害防止(+7.18m)	無し	0.0%	4.0m	55.7%	0.0m	0.0%	4.0m	55.7%	3.0m	41.8%	5.4m	75.2%	4.0m	55.7%

4. H19年度工事の検証結果(指標ごと)

”緊急対応”への指標 : 既設護岸の補強に必要な石積が確保されたか。
老朽化した現在の護岸の倒壊防止を図る。 **50.2 / 100**

”耐震”への指標 : H鋼杭(海側、陸側)が打設されたか。
震度5強の地震時にも石積部が保たれるようH鋼杭を設置する。
震度5強の地震時にも背後地盤が保たれるようH鋼杭を設置する。
25.3 / 100

最大潮位での”越流防止”への指標
: 石積堤の高さがA.P.+5.4mに達しているか。
A.P.+5.4mに達する最大潮位でも越流しない高さの護岸とする。
36.5 / 100

”高潮災害防止”への指標 : 背後地のマウンド高さがA.P.+7.18mに達しているか。
高潮時にも波が背後地に及ばないようA.P.+7.18mの高さの
マウンドを護岸背後に整備する。
27.5 / 75.2

6

5. H19年度工事の評価

目標達成基準	高潮等の災害から背後地の安全を早期に確保されること。	
↓		
検証結果	”緊急対応”への指標	50.2 / 100 (11.1 / 100)
	”耐震”への指標	25.3 / 100 (10.0 / 100)
	最大潮位での”越流防止”への指標	36.5 / 100 (7.6 / 100)
	”高潮災害防止”への指標	27.5 / 75.2 (5.7 / 75.2)
注)カッコ内はH18年度		
↓		
防護の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・H18年度に対する数値は大きく向上している(最大で4.8倍)。 ・目標達成年(H22年度頃)までの達成を考え、効率的で効果的な工事の進め方について、周辺環境に配慮しつつ検討していく必要がある。 	

7

参考 . H20年度実施計画(案)での達成見込

項 目	目標値 (%)	H18	H19	H20		
				1案	2案	3案
"緊急対応"への指標	100	11.1	50.2	89.9	89.9	89.9
"耐震"への指標	100	10.0	25.3	70.0	63.9	66.1
最大潮位での"越流防止"への指標	100	7.6	36.5	65.9	68.8	68.9
"高潮災害防止"への指標	75.2	5.7	27.5	49.6	51.7	51.8

注) H20年度

- 1案 : 完成形なし案
- 2案 : 完成形100m案
- 3案 : 完成形 40m案